

【農林水産大臣賞】

- 1 受賞団体：一般社団法人三原村集落活動センターやまびこ
〔高知県三原村〕（理事長 宮崎 俊雄）

2 むらづくりの背景・動機

三原村は、総人口 1,342 人で、四万十市、宿毛市、土佐清水市に囲まれた、標高 120m 前後の山間農業地域に位置。

高知県の中山間地域対策として集落活動センターの取組を進めるため、平成 25 年に準備会を立ち上げ。村全体を 1 つの集落と位置づけ「村民が主体となり地域の課題やニーズに応じ、生活・福祉・産業等様々な活動に取り組む仕組みづくり」を目指した。

平成 26 年に村全域をカバーする集落活動センターを設立し、村役場と分担・協働したむらづくり活動を開始した。福祉サービスを充実させた安心して生活できる村づくりと、生産活動の継続による農村の維持の二本立てで活動を進めている。

令和 4 年度からは農村 RMO 事業を活用して農用地保全や地域資源活用の強化に取り組んでいる。

3 むらづくりの内容

(1) 生産面における取組状況

低農薬の特別栽培のブランド米「水源のしずく」を商品化し、厳しい基準を設けて販路拡大。新たに精米機を整備し生産量増加を目指している。

センターが開始したシシトウ栽培は、新たに農事組合法人三原やまびこを設立して栽培を継続し、7 年間で累計売上 1 億円を達成。中山間地域における農業振興のロールモデルとして注目を集めている。また、高齢者が自由な時間に働ける仕組みを導入し、福祉と雇用を両立。村内の高齢者の働く場、生きがいつくりの場としての役割を發揮している。

(2) 生活改善の取組状況

センターの店舗部は、地元おかみさんによる地域食材を使用したランチを提供する村民憩いの場「やまびこカフェ」などの運営や、年 1 回のビアホール開催を行っている。

特産品販売促進部は、村内事業者の商品を預り販売イベントでの PR 等、村全体の特産品の販売促進に貢献している。

移住促進部は、移住者と村民の交流を目的にイベント（バーベキューなど）を開催し定住につなげている。令和 6 年度は移住者が 18 名と移住者の増加が顕著。そのうち県外からの移住者が 8 名を占めている。

福祉支援部は高齢者の健康づくり・生きがいつくりを目的に活動しており、24 時間営業のコインランドリーを設置・運営している。

このほか、令和 7 年度からはスローサイクリングツアーを開始し、その事業拡大に向けてガイドの育成にも取り組んでいる。